

職業訓練を希望する20代のLVクライアントに老眼鏡を適用した事例

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院
視覚障害学科 小林 章

1 はじめに

国リハの生活訓練課程に入所してくる多くの人は、職リハでの職業訓練を希望している。障害の程度は比較的軽度の人が多く、その場合リーディングは比較的倍率の光学的補助具で可能である。低倍率の手軽な光学的補助具といえばルーペが思い浮かぶ。ちょっとしたものを読むには最も手軽である。しかしながら、仕事として大量の事務仕事をこなすためには、片手がふさがることで作業能率が著しく制約されてしまう。弱視眼鏡という選択肢もあるが、眼鏡そのものが女性がかかるのに美しいとは言い難い。このような場合の選択肢として、近用眼鏡としての老眼鏡が考えられる。

2 ケースの概要

2-1 ケース1

氏名：K.N. 女性 年齢：23歳 障害名：無虹彩，眼球振盪 視力：右0.1，左0.06
コントラスト感度：別紙 羞名：壁の白いところはまぶしいというが、あまり自覚無し
生活歴：盲学校専攻科理療科卒，理療免許取得後理療師として働くが、人の体に触れる仕事が嫌いである。インテリ
アデザイナーになりたくて職リハで訓練を希望。

2-2 ケース2

氏名：K.Y. 女性 年齢：28歳 障害名：交通事故による網膜剥離，人工的無水晶体眼（眼内レンズ）
視力：右0.02，左0（近視視力：右0.2×S+3.0D）視野：別紙
生活歴：短大卒業後旅行会社に就職。海外でのツアーのコーディネーターが多く、海外へ出ていることが多かった。仕事
先で交通事故に遭い受傷。職リハの電話交換科かOA事務科を希望。雑誌が読みたい。

3 評価の経過

3-1 ケース1

初期評価時：最小可読文字（漢字一文字視標）9pt 視距離 5cm
読み（科学雑誌）27pt 視距離 15cmで270.2文字/分
20Dのルーペ使用により9pt文字が無理なく読めた。
有効視野評価では25cmの距離から最小文字が認識できている。
書き：B5の半罫紙に裸眼で別紙のものが書ける。
普段の行動能力や初期評価の結果を見る限りでは、生活上の問題点は感じられなかった。（生活訓練の対
象ではない。）

継続評価時：職リハでの訓練第二希望が一般事務であることを考えると、9pt程度の文字が読める必要があるため、両
手の空く眼鏡を検討した。本人に調節上無理のかからない距離が15cmと考え、視距離を半分にするた
めに8Dの加入レンズを試す。9ptのリーディングチャートが7cmの距離で288文字/分であった。度の
弱いレンズも試みたところ6Dの加入レンズでも8cmの距離で同様の結果が得られた。

職業評価：4月に入所し、6月に職リハ評価を受けた。補助具は貸し出した。しかし、課題処理速度が遅い、社会性
に欠けるという理由で不合格。進路について所長を巻き込んだ大議論になる。LV訓練を中心に9月まで
対応。9月末に再評価。合格。職リハ入所前に眼鏡処方を病院に依頼。本人に老眼鏡を作ることを伝え
てもらった。ORTに確認したところ、8Dのレンズを処方することだったので、評価のデータを提示し、
6Dのレンズにしてもらう。

職リハ経理事務科で1年の職業訓練後、都内の企業に就職が決まった。

初期評価時：眼内レンズを入れており、お祖父さんからもらった+3Dの老眼鏡をかけると、ちょうど30cmくらいの
位置に焦点が合う。（加入レンズ度数がそのまま調節力相当になっている。）
+4Dのレンズで18ptの文字が25cmの距離で読める。（漢字一文字視標）
読み（科学雑誌・横書き）18pt 視距離 25cmで305.3文字/分（+4D加入）
読み（新聞・縦書き）21pt 視距離 25cmで190.2文字/分（+4D加入）
従って12Dくらいのレンズ（ルーペ）を使えば、9pt程度の文字が見えると思われた。
10Dのルーペを貸し出したが、好評であった。

後日、ルーペの評価を行った。その結果は、
 7.75 D (スピーゲルアプラン 80) 242.8文字/分 9.75 D (スピーゲルマグノ) 281.6文字/分
 11.75 D (スピーゲルアプラン 60) 292.0文字/分であった。

有効視野評価では30cmの距離から最小文字が認識できているが、視力の良い部分はとても狭く、このケースが眼の使い方に熟練していることが伺える。

希望訓練は職リハ電話交換科であるが、もっと様々な評価を受けてもよいと感じる。

日常生活の中では雑誌を読みたいとの希望があることから、課題として行うことにする。

継続評価時：このケースも事務的な訓練が想定されるため、9pt程度の文字が読める手の空く眼鏡が望ましいと思われた。+4 Dの加入レンズで18ptの文字が読めれば、+8 Dの加入レンズを使えば9ptの文字が理論的には読めるはずである。したがって、8 Dを中心とした加入レンズの評価を行った。

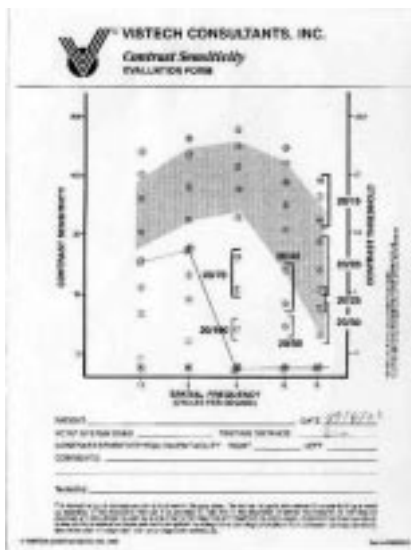
7 D = 228文字/分 8 D = 247文字/分 9 D = 290文字/分 10 D = 266文字/分

視距離は本人の読みやすい距離とした。9 Dが本人も読みやすいとのことだった。職リハ入所前に老眼鏡を本人が購入した。

本人が希望した雑誌は(9pt程度の大きさである)裸眼でも12 Dのルーペで可能であり、すでに所有している老眼鏡に8Dのルーペを合わせて使っても読むことができた。

書くことについては、銀行や郵便局などで使う細かいフォーマットにも自筆で記入が可能であった。

職業評価：評価は高く、経理事務課に決定した。訓練は約半年で終了し、都内のホテルに就職が決まった。



ケース1 コントラスト感度



ケース1 有効視野